

平成25年10月 発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312

E-mail:sizuros@vesta.ocn.ne.jp

<http://www.shizu-roshikyo.jp/>

しづ老施協

卷頭言

「視野を広げる ~ハワイ研修~」



静岡県老人福祉施設協議会

副会長

栗野 裕治

ハワイといえば誰もが一度は訪れてみたい、住んでみたい憧れのリゾートでしょう。今年の6月末からハワイにおける高齢者の生活状況や介護状況等を学ぶための機会があり、海外研修に行ってきました。ケアキニ・メディカル・センター内の「ハレ・プララマウ特別養護老人ホーム」を訪問しましたが、日系の方が多く入所する施設であり、その中身や、部屋のレイアウト、飾りなど見ただけでは日本と見間違うほどの施設がありました。入所者の日系人は2世、3世の方でした。生まれも育ちもハワイで日本語は日本語学校で学んだという



方もいました。しかし、文化は日本のだと思いました。歴史を紐解けば、ハワイにおける移民は、急増するサトウキビ畑や製糖工場で働く労働者を確保するため、1830年頃より始められ、関税が撤廃された1876年以降にその数が増え始めたそうです。様々な国から移民が来島しましたが、日本からやってきた移民が最も多く、1902年にはサトウキビ労働者の70%が日本人移民で占められるほどとなりました。移民の多くは契約期間満了後もハワイに定着し、日系アメリカ人としてハワイ社会の基礎を作り上げていきました。その2世、3世が高齢化を迎えています。サービスや食事など日本式の介護の需要も高いと感じました。

また、ハワイにおける生活面でのお話を聞くことができました。世帯のほとんどは共働きであること、家

賃の相場が高く、月収は家賃に回ってしまうという事。救急車を呼んで10万円（月収の半分）かかるという事などなど・・特別養護老人ホームの入居費用も70万円程度と高額であり、住宅にかかるお金も高額である（物価の高さは全米第3位）。しかも、ハワイは高齢化が進んでいる地域だという事です。共働きであれば、家で介護することも難しいと思います。ハワイ（アメリカ）では公的な介護・医療保険がありません。施設に預ける費用やデイサービスに通わせるお金が非常に高く、一般市民には大きな負担となっています。メディケイドという保障制度（生活保護的な制度）があることを聞きましたが、個人の財産があるうちは使えないという事です。高齢者化について様々な課題のある事が伺えます。

また、プロジェクトダーナ（お布施の精神=ボランティア）についても学ぶことができました。アメリカでは、子供の頃からボランティアに参加することが、文化の中に根付いています。助け合いの精神が自然にあることが日本とは異なると感じました。この精神が日本と異なり介護保険制度が整っていない部分を多少なりともカバーしているのではないかと感じました。

文化が違えども、高齢化の課題はあります。言語、文化の異なる海外の施設を見ることはとても勉強になり刺激になると感じています。今後も視野を広げるために、様々な地域に出向き、多くの人々から話を聞くことで、自分たちが理想とする高齢者社会を創ることができるのでないでしょうか。

(特別養護老人ホーム「一空園」施設長)

特 集

第5回高齢者福祉研究大会を終えて

7月30日、グランシップにおいて第5回高齢者福祉研究大会が開催されました。研究発表者129人（発表72題）、参加者は福祉関係の学生を含めて696人、総勢約900人となり、盛大な大会となりました。

第5回高齢者福祉研究大会を終えて



大会実行委員長 種 岡 養一

去る7月30日、午前10時よりグランシップにおきまして、第5回高齢者福祉研究大会が開催されました。今回も講演会と研究発表という例年同様のスタイルで、研究発表者129名（発表72題）、参加者は福祉関係学生を併せて696名、スタッフ66名と総勢900名に迫るご参加を頂いて無事に終了することが出来ました。

午前の開会式での石川会長の挨拶で幕を開け、講演会には、フリーアナウンサーでエッセイストの小谷あゆみ氏をお迎えして、「介護の達人は人生の達人！」と題して、小谷氏の出演されているNHK番組の映像紹介を導入として、「百人一首」形式にして介護者の心の変化や、介護する側とされる側の思いを綴ったものなどを興味深く述べ頂き、介護にまつわる喜怒哀楽を短歌に詠むことで気持ちの安定が図れるのではとのご講演を頂きました。

講演会終了後、6ブロックに分かれて研究発表が開始され、他施設の創意工夫や取り組みが良いヒント・刺激になった方々も多かったようです。回を重ねる度

に研究発表内容のレベルも高くなり、各発表会場で審査に当たられた委員の皆さんもご苦労されたと聞きました。また、優秀賞に選出された発表は、10月15日にグランシップで開催する「介護力向上研修～研究発表Again～」で再度聴講できますのでお楽しみにして下さい。

今回も大会当日には、毎回ぶつけ本番の状況で大会運営に携わって頂きました、企画経営委員会の皆様、研修委員会の皆様、21世紀委員会の皆様、大会実行委員会の皆様の御協力に深く感謝いたしますと共に、県老施協事務局の皆様のお力添えに感謝いたします。ありがとうございました。

また、次年度はグランシップの改修工事に伴い、会場を東部の沼津市に移しての開催となりますので、よろしくお願ひいたします。



第5回高齢者福祉研究大会 優秀賞

ブロック	施設名	演題
A	みくらの里	記録書式の変更によるご利用者の水分摂取量の増加
B	高麗デイサービスセンター	ザ 元気になれる選択活動プログラム実践報告
C	ぬくもりの里	介護食の充実で幸せに
D	伊豆白寿園	確実な水分補給と口腔ケアのあり方の追求
E	西之島の郷	利用者様体験研修を通じて
F	吉津園	食べる意欲と樂しみを

〈予告〉第6回大会 開催日程・場所

*期 日 平成26年8月8日（金）

*会 場 「プラサ ヴェルデ」(26.7オープン予定) 沼津駅北口より徒歩3分
(※総合コンベンション施設として、現在県が建設中！)

優秀発表事例の紹介

記録書式の変更によるご利用者の水分摂取量の増加

介護老人福祉施設 みくらの里

ユニットリーダー 高橋 将
ユニットリーダー 柏木 大行

私たちの施設では、近年全国の施設と同様の、ご利用者の認知的、身体的な重度化が進行しており、これに対応するため、全国高齢者ケア研究会の提唱する「トータルケア・プログラム」の導入を開始しました。

プログラムの中でご利用者の食事、排泄、生活状況等の様々な記録を一覧化するという項目があり、この一覧化された記録書式の事を、総合記録シートと呼んでいます。このシートの運用を始めてから半年ほどして、ご利用者の水分摂取量が全体的に増加しているという印象を受けました。そこで、平成24年2月の書式導入時から、24年12月までみくらの里に在籍されたご利用者に限定した上で、水分量のデータを抽出し、実際に水分摂取量は増加したのか調査を行いました。

結果は、食事介助が必要なご利用者も、ご自分で水分摂取できるご利用者も水分量が増加しており、全体の平均値では12月時点は、開始時点より一日平均水分摂取量が50cc増加していました。また、増加傾向が一時的ではなく、10か月間通して増減しながら緩やかに上昇しているという傾向がありました。この結果から、私たちはこの上昇傾向は、職員の意識の変化によるものと考えました。なぜなら、総合記録シートはご利用者の身体状況を一覧にできるため、水分量だけを見る

のではなく他の排泄状況や生活状況も組み合わせて確認する事で、本当にそのご利用者に水分が足りているのかどうか職員が理解できるようになったからです。

私たちは水分量に加え、施設での脱水による体調不良や、入院、また下剤使用が減少しているのではないかと22年度、23年度と24年度のデータを比較調査しましたが、水分摂取量の増加に伴ってそれらが減少しているというような相関関係は見られませんでした。

今後は脱水等を減少できるだけの水分摂取量を安定して確保できるよう、水分摂取方法などの工夫を行うことと、データ抽出を継続し、職員への啓発を行います。



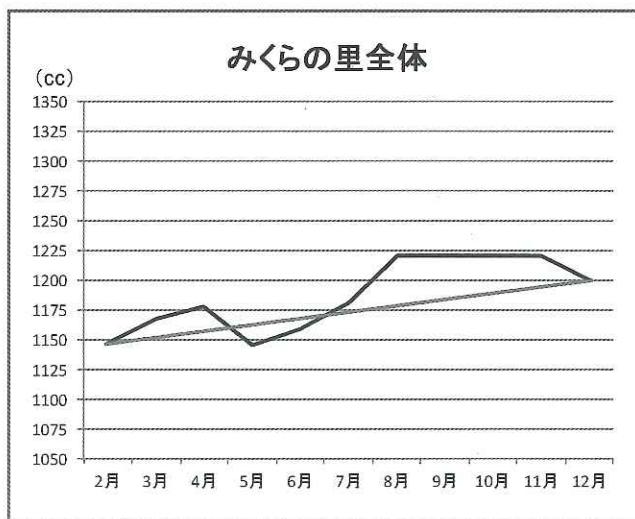
ザ 元気になれる選択活動 プログラム実践報告

高麗デイサービスセンター

課長 吉田 靖基

運動でも、制作活動でも人にやらされているという気持ちでは楽しむことは出来ません。また、リハビリ効果も半減してしまいます。そのため、高麗デイサービスでは4年前より「自己選択・自己決定型活動プログラム」に取り組んできました。「心が動けば身体も動く」この活動を通してご利用の皆様が笑顔で、自ら参加意欲を持つようになった実践報告を致します。

具体的な取り組みの一例として、高麗デイサービスではご利用の皆様が朝到着すると、50種類以上の活動メニューの中から1日のスケジュールをご自分で選んで頂きます。それから楽しい1日のスタートです。また活動をより主体的に参加できるように、施設内通貨「ダラー」導入しました。様々な活動に参加すると「ダ





ラー」を貯めることができます。また、貯まった「ダラー」を施設内の「ダラー銀行」まで持て行けば専用通帳に貯金が出来、ご自分の頑張りが目に見えて実感出来る仕組みがあります。

コンセプトとして、本物志向の取組を大切にしています。大好きなコーヒーを飲みたい方は、腕のリハビリを兼ね、コーヒーミルで豆から引き、香りと味を楽しみに参加なさっています。また本格的なパン作りを楽しむ、パン工房の活動も人気のメニューです。製作活動がお好きな方は、籠作り、刺子、マスコット、染め物等他にも多くの制作活動に主体的に参加し、中にはご利用者様が講師となり進めている活動もあります。6月からご利用者様が制作なさった作品を陳列台に展示し、ご利用の皆様が自分で貯めた「ダラー」で購入出来る仕組みをスタートしました。今まで以上に制作活動も盛り上がっています。

この活動を行って、一律的な集団活動とは違い、ご利用の皆様が個々に自分で決めた活動に参加することで、楽しみながら自然と身体を動かし、リハビリ効果の向上につながっていると考えられます。皆様から「今日は廊下を10周まわり、ダラーを稼ぐよ。」「血圧を自分で計るようになったら、自分の体調に興味が持てるようになったよ。」等沢山前向きなお話しを伺うようになりました。今後は昼食バイキングやダラーの使い方を広げて行きたいと考えています。



介護食の充実で幸せに

特別養護老人ホーム ぬくもりの里

調理員 原田 幸紀

調理員 後藤 光子

個別ケアが求められる中、ぬくもりの里では、嚥下困難になった方の栄養状態の向上を目指すと共に、楽しみを感じてもらいたいとの思いから最期まで口から食べることにこだわりを持って「食」というものに取り組んできました。

平成17年より独自のやわらか食、ムース食など副食の改善に力を入れてきましたが、米や餅などの主食が最も誤嚥の危険性が高いということを学び、平成22年からは主食に目を向け、取り組みました。

もっと食べられる主食を増やしてあげたい、食べたいと思って頂ける食事を楽しんで食べてもらいたいと思い、平成24年度は「やわらか麺」に挑戦しました。

咀嚼・嚥下機能が低下した方は、長い麺は飲み込みにくいことから、長い間細かく刻んで提供されてきました。しかし、細かく刻んだ麺は口の中でバラけてし



常食



やわらか麺

まい食塊を作りにくいので、逆に誤嚥の危険性が高くなります。

そこで、まずは乾麺を使用してムース食と同じ工程で作成しましたがうまくいかず、思案に暮れていたところ、こしのない伊勢うどんの存在を知りました。これを使用し、圧力鍋で煮ることで更にやわらかく仕上げることが可能になり、食材の選択と調理方法の工夫により、今まで麺を食べられなかった方も食べることができるようになったのです。

試作を繰り返す中で咀嚼・嚥下機能が低下した場合でも、ある程度の長さがあり、やわらかい麺の方が食

べやすいということがわかりました。今回の麺は刻み麺とお粥を食べて頂いた方に提供しましたが、利用者様から「おいしかったよ」と声をかけて頂いた時は、私たちの思いがやっと届いたと感じ、嬉しかったと同時に「ホッ」としました。咀嚼・嚥下機能が低下した方の食べられる主食をまた一つ増やすことができました。

食べる楽しみが増え、食べたいと思って頂ける食事を提供することは栄養状態の向上にも繋がっていくと考えます。

今後も見た目や味はもちろん、心にも働きかける、そんな食事作りに努めていきたいと思います。

シリーズリレーコラム

地域貢献への取り組み

特別養護老人ホーム 竜爪園

総合施設長 薩川福次

平成5年4月開設の特別養護老人ホーム竜爪園は、駿府城から見て鬼門の方向にあったことから徳川家康も崇拝したと言われる信仰の山「竜爪山」（北側の薬師岳（標高1,051m）と南側の文殊岳（標高1,041m）からなる。）にちなんで名づけられました。

その竜爪山から当施設の西側を南に向かって流れるのが長尾川です。その遊歩道は花壇や植栽が施され、普段は地元の方が朝夕にウォーキングを楽しんだり、桜のシーズンには花見客も多く訪れるなど多くの方々から親しまれています。

この遊歩道の管理は市の管轄ですが、近年の財政的な問題からそれらを楽しむには少しばかりお粗末な状況となっていました。天心会は今年度の事業計画の一つに「地域貢献」を掲げたこともあり、微力ながらこ



の遊歩道の整備に取り組むこととしました。

4月から毎月1回・最終土曜日の朝をボランティア活動の日とし、初回は夏に向けて色々な花の苗を購入と植え付けを行い、以後は雑草やゴミ等を取り除くなどの活動を続けています。無理なく継続できるよう、花壇への水やりの管理には新たに長いゴムホースや貯水用バケツを購入し、施設の全部署が当番制で業務の合間を上手に使いながら当たるようにしました。

当初は花や植物についての知識や興味のない職員も多くいて驚くこともありました。自宅の庭の草花を花壇に移植して楽しむ職員も出てくるなど、ゆっくりですが長尾川遊歩



道の整備が定着してきているように感じます。向日葵、サルビア、日日草、ヤブラン、シャガなどを見て散歩する方々から感謝の言葉をいただくこともあります。涼しい季節になったら、入園者の方々にも楽しんでいただけるよう暑い中ですが草取り等の活動を続けています。

来年度からは、利用者本位のケアに職員一丸となって取り組むため、従来型特養を「薬師」、ユニット型特養を「文殊」と名付けることとしました。私達の心に安らぎと希望を与えながら優しく見守ってくれている竜爪山や長尾川のような施設を目指し、地域貢献を続けて行こうと思います。

施設・名称の由来と想い

「父の想いの玉沢昭寿園」

軽費老人ホーム(特定ユニット型ケアハウス)
玉沢昭寿園 園長 木下朝子

玉沢昭寿園は三島市の社会福祉法人立としては初めての老人ホームを昭和48年4月1日に開設して満40年が経ちました。ホームは日蓮宗本山経王山妙法華寺の境内地の一角に建って居ります。

妙法華寺は、日蓮上人の第一の弟子(六老僧の筆頭)大成弁日昭上人によって、730年前(弘安7年)に鎌倉の浜土の玉沢(現鎌倉市材木座)に建立され戦乱を逃れ、越後、修善寺に避難した後、1621年(元和7年)約400年前に現在の地、大木沢に再建され地名を大木沢から玉沢に改称されました。

妙法華寺開山の日昭上人は日蓮の片腕として、日蓮宗の普及、人心の掌握にと活躍され103歳の長寿を全うされました。

昭寿園の名称は、103歳まで長生きされた日昭上人にあやかり、ご入園者様の長寿を願い昭の一宇をいただき、寿は長生きを願うみんなの想いを込めて、理事長が昭寿園と命名を致しました。

お寺という所は、ご高齢者の方々が老後を安穩に過ごされるよう手助けをするのが役目であると、妙法華寺の貫首であった私の父が、昭和23、4年の終戦後の混沌とした楽しみも何もない時代に、お寺の大広間を開放し、入浴、宿泊施設も新たに造り、お年寄りや一般の方々が日帰り入浴に、宿泊にと楽しくご利用いただきました。今でいうデイサービスのはしりであり、小規模多機能の原型であったかなと思って居ります。父は老人ホームの開設を望んでいたのですが叶わず、私の弟がその想いを汲んで、最初の老人ホーム、玉沢昭寿園を開設致しました。

長い歴史の中で多くのご入園者様に出会い、地域の皆様や、ボランティア、ご家族の皆様に支えられ職員と共に歩んで参りました。

これからも職員一同心を合わせ、誠実に穏やかに安らぎを大切に歩んで参りたいと思って居ります。



活動報告

【老施協】

★25年7月30日、第5回高齢者福祉研究大会をグランシップにおいて開催、参加者約900人

★理事会 25年8月8日、会長表彰候補者の承認、高齢者福祉研究大会開催結果報告、県への社会福祉についての要望、25年度研修計画、県外先進事例視察研修、県との懇談会、「介護の日」啓発活動、県事業との連携・協働について協議・報告等

【企画経営委員会】

★25年6月5日、25年度活動計画案、県との懇談会、「介護の日」啓発活動、しづ老施協の編集・校正・企画について協議

★25年7月17日、高齢者福祉研究大会実行委員会等との合同会議、全体スケジュール、役割分担、班別業務について協議

【研修委員会】

★25年7月17日、高齢者福祉研究大会実行委員会等との合同会議、全体スケジュールと役割分担、班別業務について協議

【21世紀委員会】

★25年5月13日、施設間交流研修、25年度活動方針等案について協議

★25年6月11日、接遇マナー研修を静岡音楽館にて

開催、119名が受講、同日、施設間職員交流研修、高齢者福祉研究大会について協議

★25年7月17日、高齢者福祉研究大会実行委員会等との合同会議、全体スケジュールと役割分担、班別業務について協議

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★25年7月17日、企画経営委員会、研修委員会、21世紀委員会との合同会議を開催、全体スケジュールと役割分担、班別業務について協議

【養護委員会】

★25年6月20日、県地震防災センター見学、その後全体会議を開催し、今後の活動計画、県との懇談会等について協議

【特養委員会】

★25年9月5日、今後の活動計画、地域密着型サービスの事業展開に関する研修案、リスクマネジメント研修案等について協議

【軽費委員会】

★25年7月5日、施設長研修を総合社会福祉会館にて開催、31名が受講

【在宅委員会】

★25年9月3日、今後の活動計画、地域密着型サービスの事業展開に関する研修案等について協議

編集後記

今年の夏は、毎日が暑い。私は避暑にも行けずにひたすら家に籠っている。「熱い」と言えば8月5日に社会保障国民会議報告書が出されました。医療・介護・福祉・子育てを2025年モデルとして街づくりも含めた視野で考えていくことが重要となります。「全世代型の社会保障への転換」は、詰まる所、保険給付の範囲の適正化・重点化・効率化そして負担の増大を抑制し財源の確保を目指すものとしている。熱い議論の割には高齢者にやさしくないのかもしれません。今後の絶妙なバランスを期待したい。

(川島)

「異常気象」という言葉をよく耳にしますが、最近では異常気象が通常のように頻繁に発生するようになりました。日本海側では今まで経験したことのない大雨、太平洋側では降雨量の減少による取水制限。地球温暖化の影響と言われていますが、世界各国で発生している異常気象、先行きが不安なりません。

(小泉)

高校野球県大会の数試合を毎年、グランドで観戦しています。予想外の試合展開に歓喜の連続。全校生徒、裏方マネージャー、OB、父母会等々、3年間の集大成を演出するに相応しい豪華キャストの声援を受け、躍動する選手の姿に、感動を覚え、明日への活力にしています。暑い夏を乗り切るためのカンフル剤です。来年、ぜひグランドで遇いましょう。

(溝口)

●施設のユニーク行事●

「第27回 四施設合同運動会」を行って

養護老人ホーム 掛川市立ききょう荘

施設長 西尾 幸夫

皆さんの施設では、入所者や家族のために色々な行事を行っていると思いますが、私どもの施設においても施設行事を行っております。昨年の10月に第27回四施設合同運動会をききょう荘が周り当番で行いましたので紹介致します。

目的としては、近隣施設間の交流、入所者及び職員の運動不足の解消、誰でも出来る競技を主に1日を楽しみます。四施設は、とよおか・楽寿荘・可睡寮・ききょう荘です。当番施設では年度初めに会場を押さえ、7月から四施設担当者会議を数回行い、前回の反省を踏まえ競技内容等の確認を行い本番に備えます。当施設では、練習場所もないため、廊下に椅子を並べて行います。競技はいかに正確に速く行うかが大前提になりますが、日ごろの手八丁・口八丁が本領を發揮します。約1ヶ月の練習が運動不足の解消と入所者同士や職員との会話が盛り上がり、歓声と笑顔が響き渡ります。前日には、会場準備の持ち回り品（看板・入場門・プラカード・垂れ幕・施設旗・腕章・アンカータスキ・四色旗・バトンなど）当日は、バスで体育館に集合、開会は小中学校の運動会に似ています。競技（ゲーム）としては、タワー作り競争・芯送り競争・パン喰い競争・玉と輪送り競争・玉入れなどですが、やり方についてはわかりやすいルールを決めよく確認した方が誤

解を招きません。（練習と本番でやり方が違うと応用が利かないため非常に混乱します。）昼食もブルーシートの上で、全員同じお弁当ですが、体育館によっては飲食の規制があり、借用にも制限があります。現況としては、特養等の待機者が増え、運動会参加のリスクが高く年々参加出来ない人が増え、バスでの移動や競技内容、選出メンバーも限られるようになっているため、合同運動会の存続は無理との意見が出ましたが、止めてしまえば復活は出来なくなるため、高齢者にも無理なく出来る競技に変え存続しています。

効果としては、他施設と同じ競技を行い比べる事で、「がんばろう」との思いが自ら湧いてくる事が何よりのプレゼントです。

